

況です。薬の使用児も少なくなり、便秘児の多くは2日目には自然排便を見る様になった。

写真6

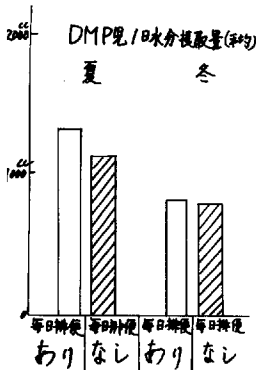


写真7

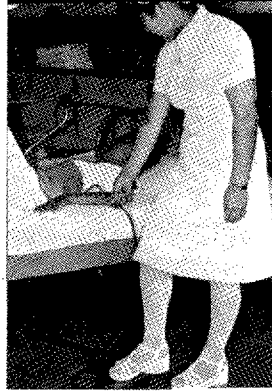


写真8

年齢別	便秘あり	便秘なし	排便あり	排便なし	排便回数
49	29	4%	94%	29	
51	29	17.8%	82.8%	6%	

排便回数	1回	2回	3回	4回	5回
49	29	10	3	10	5
51	29	5	8	6	4

排便回数	2回	3回	4回
49	29	7	5
51	29	8	4

<まとめ>

各種の方法に対し患児からは、特に反発なく協力を得られた。何れの方法も個人差は多少あった。しかし、全般的には改良マンシットで良い結果を得た。私達は今後も患児の個々の便秘状態を把握し、状態に適した援助を続けると共に、自然排便の習慣づけを可能にするため、更に研究、検討をしてゆきたいと思う。

19) PMD児にフローテーションパットを使用して

国立療養所東埼玉病院

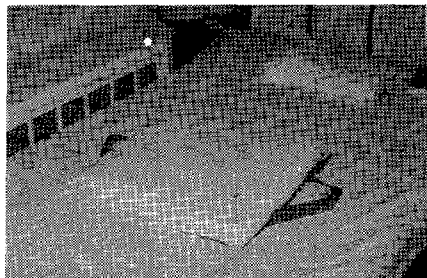
大野 美佐子 新垣 小夜子
樋口 光江 佐藤 るみ子

<目的>

PMD児は4~5才で発症し、10才前後ではほとんど歩行不能となり、その後長期間の車椅子生活を余儀なくされており、しかも病状の進行に伴い脊椎の変形をきたし、側弯の状態により体重の負荷が一側の殿部に増強され、疼痛を訴える。又ベッド臥床時においても同一の体位保持が困難で、体位交換も多く、睡眠が妨げられている。そこでフローテーションパットを使用することにより骨隆起部での体重の分散及び圧力の減少をはかり疼痛の緩和、睡眠時間の延長が得られるのではないかと考え、試みることにした。

フローテーションパットは縦横41cmの正方形で厚さ4.5cm、重さ5.8kgの半流動ゲル状の高分子化合物をビニールの袋に封入したもので、感触はコンニャクあるいはゼリーのようなもので、圧力

の分散と水平方向への移動性を重要視してつくられたものである。欠点として吸湿性に欠け、価格の高いことがあげられている。当院ではこのパットにメリヤスのカバーをつけて使用している。



<調査方法>

期間51年6月～8月

対象 PMD児障害度（スインヤード）5度児2名、6度児7名、7度児4名、8度児3名、計16名。

項目 夜間体位交換数、発汗吸収量の測定、殿部皮膚の状態観察と記録、患児の訴え（疼痛、疲労感、睡眠、体動、体位、感触）は質問紙法により調査した。

<結果と考察>

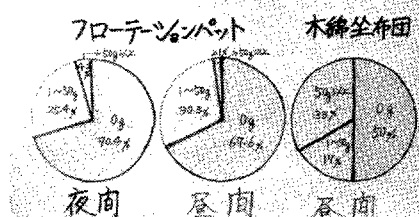
図1

夜間体位交換状況

障害度	5	6	7	8	計
減少	2	6	3	3	14
増加	0	1	1	0	2

図2

発汗吸収量



夜間体位交換数は図1のような結果を得た。発汗吸収量は図2のような結果であるが、フローテックパットは木綿坐布団と比べてかなり吸湿性が悪いといえる。殿部皮膚の状態、調査前より湿疹のあった患児11名を含め、悪化したり、新たに症状のあらわれた患児は1人もいず、これは吸湿性が悪く、調査期間が梅雨から夏にかけてと一番殿部陰部に症状をきたしやすい時期にもかかわらず変化を認めなかったのは入浴、シャワー、清拭のいずれかを毎日行い、下着交換や症状のある患児には医師の指示による軟膏を塗布するなど、清潔乾燥に努めたからだと思われる。

<患児の訴え>

夜間の場合図3のような結果であるが、疼痛も不眠の訴えもパット使用後はかなり減り、成果は体位交換数の減少によくあらわれている。感触が悪いとの訴えは、使いはじめの頃に訴えが多く慣れるにしたがい訴えなくなっている。

昼間の場合図4のような結果を得た。

写真3

患児の訴え
昼間

痛	眠	可	安	定
無	無	可	安	定
疼	疼	体	体	感
痛	眠	動	位	触

写真4

患児の訴え
夜間

痛	眠	可	安	定
無	良	可	安	定
疼	眠	体	体	感
痛	眠	動	位	触

<おわりに>

自力で体動可能な患児が、フローテーションパットを使用することにより、動きにくいといった面もあるが、障害がすすみ介助が必要な患児ほど使用順番がすぎても「今度はいつ使えるの?」と待遠し気に催足したり、疼痛の緩和、体位交換数の減少により睡眠時間の延長も得られ、成果はあがっている。今後共身体の清潔乾燥に留意しながら使用してゆきたいと思っている。

20) マットレスについての一考察

国立療養所東埼玉病院

前 村 久 子 齊 藤 由 利 子
 名 地 弘 子 物 永 こ ず ゑ
 福 田 悦 子

<はじめに>

進行性筋ジストロフィー症児にとって年々障害度も進行し骨格の変形、関節の拘縮等により長時間同一体位のまま就寝する事が不可能となり、夜間の体位交換数も多く睡眠が妨げられる。当病棟で現在使用中の各種マットレスについて検討し、障害度に応じ最も心良く睡眠出来るマットレスを選出し、より良いアプローチを試みる事にした。

<方 法>

クレーター、パーム、エヤー、三種類のマットレスを障害度別に1人が各種マットレスを2週間ずつ使用し調査した。

クレーターマットレスとは、スポンジ製で表面は凹凸になって弾力性にとんでいます。エヤーマ

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

<目的>

PMD 児は 4～5 才で発症し、10 才前後でほとんど歩行不能となり、その後長期間の車椅子生活を余儀なくされており、しかも病状の進行に伴い脊椎の変形をきたし、側弯の状態により体重の負荷が一側の殿部に増強され、疼痛を訴える。又ベッド臥床時においても同一の体位保持が困難で、体位交換も多く、睡眠が妨げられている。そこでフローテーションパットを使用することにより骨隆起部での体重の分散及び圧力の減少をはかり疼痛の緩和、睡眠時間の延長が得られるのではないかと考え、試みることにした。